

メッセージアウトライン イザヤ45：22「仰ぎ見て救われよ」

イスラエル人は430年間エジプトに滞在し(出エジプト12:40)、そこで増え広がったが、エジプトを飢饉から救ったヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こり(出エジプト1:8)、それ以来、イスラエル人は奴隷状態になった。

しかし、主なる神は指導者モーセを立てエジプトに10の災いをもたらし、心かたくななエジプト王(パロ)もついにモーセの要求を受け入れ、イスラエル人たちをエジプトから出て行かせることに同意した。主は紅海の水を二つに分け、その渴いた地を通らせたが、イスラエル人を捕らえようとして後を追って入ったエジプトの軍隊は戻ってきた海の水によって溺れ、全滅した。(出エジプト14:15-31) イスラエル人は主の導きによりシナイの荒野を旅し、シナイ山では十戒及び律法が与えられた。しかし、不信仰なイスラエルの民は指導者モーセに、たびたび不平不満をぶつけ、主に逆らった。そのため彼らはシナイの荒野で40年間も旅をして過ごさなければならなかった。(使徒7:36)

その旅も終わりに近づいてきた頃、またもイスラエルの民はがまんができなくなり、神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物に飽き飽きした」(民数記21:5) そこで主は民の中に燃える蛇(毒蛇)を送られたので、蛇は民にかみつき、多くの人々が死んだ。(21:6) 民はモーセのところに来て、自分たちの罪を言い表し、蛇を取り去ってくださるように主に祈ってくださいと懇願した。すると、主はモーセに「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる」と言われた。そのことばに従ってモーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけた。すると毒蛇にかまれた者でも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、死なずに生きることができた。(21:7-9)

この旗ざおの上につけられた青銅の蛇は、十字架の上に上げられた救い主イエス・キリストを示す型であった。

「地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神である。ほかにはいない。」(イザヤ45:22) イザヤは出エジプトより700年ほど後の預言者。神の御子イエス・キリストが十字架にかかって死なれたのは私の罪の身代わりであったと信じ仰ぎ、受け入れる者は誰でも救われる。

「だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」ヨハネ3:13-16